

病害虫発生予察情報

平成29年度 病害虫発生予察情報(美濃地域) 8月予報

【水稲】

斑点米カメムシ類 * 病害虫発生予察注意報第2号 (H29.7.27付け) 発表

7月中旬に実施した斑点米カメムシ類一斉調査では、イネ科植物の多い畦畔で本虫が散見され、水田内でイネ科雑草が出穂している地点では本田内への本虫の侵入が確認されました。

水稲の出穂直前および出穂後の畦畔除草は、本虫を水田内に追い込む恐れがあるため、出穂10日前までに実施するとともに、水田内のヒエ類等は、出穂前に確実に除去してください。

【果樹類】

果樹カメムシ類

フェロモントラップへの誘殺数は東濃地域で多く、予察灯への誘殺数は中濃地域で平年並に推移しています。今後、新世代が発生し、山林等でスギやヒノキ球果などのエサ不足になると果樹園などに飛来する可能性があるため、十分な注意が必要です。ほ場に飛来が確認された場合は直ちに防除を実施してください。

【野菜類】

タバコガ類

中濃地域及び東濃地域に設置したフェロモントラップへの誘殺数は平年並に推移しています。今後は発生量が増加し、ナスやトマトでは幼虫による食害が想定されます。本虫は若齢幼虫期の防除が最も効果が高いため、ほ場内をよく確認し、若齢幼虫が認められたら直ちに防除を実施してください。

○主な病害虫の発生時期及び防除時期(8月)

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1 旬	2 旬	3 旬	4 旬	5 旬	6 旬	
水稲	生育(ハツシモ)	並						<出穂>	・7/14 調査(6/12 田植：農業技術センター)
	生育(コシヒカリ)	並	<穂揃期>						・7/14 調査(5/11 田植：農業技術センター)
	穂 い も ち	並	初 発 生 (出 穂 以 降)						・ 穂いもち 穂ばらみ期～穂ぞろい期に防除を実施する。
	紋 枯 病	並	<発生最盛期>						・ 紋枯病 発生を確認したら薬剤防除を実施する。
	ニカメイガ	少	<第1世代成虫>						・ ニカメイガ 発生を確認したら薬剤防除を実施する。
	セジロウンカ	少	<第2世代幼虫>						・ セジロウンカ 8月上旬に株当たり幼虫が5頭以上いる場合は防除を実施する。
	トビイロウンカ	少	<第2世代成虫>						・ トビイロウンカ 8月上旬に株当たり幼虫が5頭以上いる場合は防除を実施する。
	ツマグロヨコバイ	並	<第2世代幼虫>						・ ツマグロヨコバイ 発生を確認したら薬剤防除を実施する。
	斑点米カメムシ類	多	本 田 へ の 侵 入 (出 穂 以 降)						・ 斑点米カメムシ類 ジノテフラン粒剤による防除は出穂7～10日後に散布するのが効果的である。
	防 除 適 期	穂いもち・紋枯病：穂ばらみ～穂ぞろい期に同時防除を実施する。 斑点米カメムシ類：散布剤による防除では、穂揃期およびその7～10日後の2回を基本とする。 ▲ニカメイガ							
大豆	ハスモンヨトウ	並	<発生量増加>						・ ハスモンヨトウ 発生に応じて防除を実施する。
		防 除 適 期							
カキ	岐阜西濃 中濃	ハマキムシ類	並				<第2世代幼虫>		・ ハマキムシ類 幼虫発生初期の防除を徹底する。
		カキノヘタムシガ	並				<第2世代幼虫>		・ カキノヘタムシガ 第1世代成虫 発蛾最盛期 7/19～26 (平年 7/21：岐阜市)
		防 除 適 期	▲ハマキムシ類 ▲カキノヘタムシガ						
		防 除 適 期	▲ ～ ▲						
モモ	灰 星 病	やや多	<果実発病最盛期>						・ 灰星病 本病は収穫後の市場病害として問題となるため、収穫前に予防防除を必ず実施する。
	ナシヒメシンクイ	やや少							
		防 除 適 期							
果樹	カメムシ類	並	<主に新世代成虫>						・ 果樹カメムシ類 飛来が認められる場合は直ちに防除を実施する。
		防 除 適 期							
茶	岐阜西濃 中濃	ハマキムシ類	やや多				<第3世代幼虫>		・ ハマキムシ類 幼虫発生初期の防除を徹底する。
			並					<第3世代幼虫>	
		防 除 適 期	ハマキムシ類(岐阜西濃) ▲ ハマキムシ類(中濃) ▲						

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1 旬	2 旬	3 旬	4 旬	5 旬	6 旬	
野菜 ・ 花き	灰色かび病	並							・同一系統薬剤の連用は避ける（薬剤耐性および抵抗性の発達）。
	ハスモンヨトウ	並			< 発生量増加				
	タバコガ類	並			< 発生量増加				・ 灰色かび病 花ガラや葉先枯れは感染源となるため取り除く。
	コナジラミ類	やや少							
	アザミウマ類	並							・ ハコガ 類 幼虫は新梢の隙間や花蕾内に生息するため、十分量の薬液を丁寧に散布する。
	ハダニ類	やや少							
	防除適期								

注1) ▲、▲～▲：防除適期

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

いもち病

BLASTAM(アメダスを利用した葉いもち発生予測システム)では、6月下旬より、感染好適条件が周期的にあらわれており、7月以降も感染好適条件および準感染好適条件が頻出しています。一部地域では発病が認められ、ずり込み症状がみられるほ場もあります。向こう一カ月の気象予報では、平年と比べて晴れの日が少ないと予想され、今後も本病に感染しやすい条件が続くと考えられます。発病が認められた場合は、早急に防除を実施してください。

表1 2017年7月BLASTAMによるいもち病の発病条件 病害虫防除所

日付	岐阜	大垣	愛西 海津	関ヶ 原	揖斐 川	樽見 根尾	美濃	八幡	長滝 白鳥	美濃 加茂	黒川 白川	多治 見	中津 川	恵那
7/10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/11	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-
7/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/13	○	-	○	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
7/14	-	-	-	-	-	●	-	▲	●	-	●	-	▲	-
7/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	▲	-
7/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
7/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲	-
7/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/23	-	-	-	-	-	▲	-	▲	-	-	-	-	-	-
7/24	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	●	▲	▲	-
7/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	▲	▲
7/26	-	-	-	○	○	●	○	-	-	-	-	-	-	-
7/27	-	-	-	-	○	-	▲	▲	-	-	-	○	-	▲

凡例

- △：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は20℃未満）
- ▲：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は25℃以上）
- ：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、湿潤時間の平均気温は15～25℃の範囲外）
- ◎：準好適条件（湿潤時間が湿潤時間中の1平均気温ごとの必要な時間より短い）
- ：好適条件（湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある）
- ：好適条件、準好適条件は満たされなかった。
- 空欄：欠測値があるため判定不可能

※感染好適条件が現れると感染し、潜伏期間（おおよそ5～10日）を経て発病します。

6月～8月は

「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努めましょう。農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物だけでなく、住宅地等へも飛散がないよう、十分に配慮しましょう。

東海地方1カ月予報（名古屋地方気象台 7月27日発表）

向こう1カ月の気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または少ない予想です。平年に比べ、晴れの日が少ないでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_11901.html

〒501-1152 岐阜市又丸729 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767